

世界のクラゲ切手[6]解説

櫻山 嘉郎・久保田 信

(Kashiyama, Yoshiro & Kubota, Shin)

Jellyfishes on stamps of the world [6]

京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所

(〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海)

クラゲ切手の本誌へのシリーズ紹介は、今回で最新発行のものまでに至った。逐一のリスト紹介はひとまずこれで終了である。今回は、最新のものに加え、本誌前号No.112に示したような「小型切手シートのマージン」に描かれたもの1種類 (No.122) と「切手帳の表紙に描かれたクラゲ類 (No.123)」1種類をそれぞれのジャンル代表として含めた。マージンに描かれたクラゲ切手は、手元に少なくとも数十枚あるが、前回や今回のもののように美しい目立つ図案でクラゲ類が登場していないものが多く、すべてを紹介するのを割愛した。また、既に発行済みであったが、紹介を漏らした準クラゲ切手も今回分に含めた。今回も、これまで頻繁に意匠に用いられてきた大型で野外で普通に見られるクラゲ類であるカツオノエボシ、オキクラゲ、ミズクラゲ、タコクラゲなどが登用されている。それぞれの切手のクラゲ類の部分はこれまで通り原寸大で示すが、大型・小型シートは30~40%に縮小して全図を示した。なお、リスト中には額面やスコット番号を示さなかった。

図の番号	分類学上の位置*	和名	綱**	発行年	発行国
117	○ <i>Mastigias papua</i> *	タコクラゲ	S	2000	ジブチ共和国
118	○ <i>Pelagia noctiluca</i> *	オキクラゲ	S	2000	ガイアナ
119	○ Rhizostomae *	根口クラゲの一種	S	2000	パラオ
120	○ Semaestomae *	旗口クラゲの一種	S	2000	ニカラグア
121	○ <i>Atolla</i> sp. *	ヒラタカムリクラゲ科の一種	S	2000	アメリカ合衆国
122	<i>Physalia physalis</i> * ¹⁾	カツオノエボシ	H	1985	グレナダ・グレナディン
123	<i>Pelagia noctiluca</i> * ²⁾	オキクラゲ	S	1986	イギリス
124	Cnidaria *	クラゲの一種	?	1975	アフアルサイサ
125	Cnidaria *	クラゲの一種	?	1976	アフアルサイサ
126	Cnidaria *	クラゲの一種	?	1985	リビア
127	Cnidaria *	クラゲの一種	?	1991	チリ
128	Cnidaria *	クラゲの一種	?	1991	ニューカレドニア
129	<i>Aurelia aurita</i> *	ミズクラゲ	S	1999	ベトナム
130	Cnidaria *	クラゲの一種	?	1999	アラブ首長国連邦

シート・連刷に含まれるクラゲ切手は () 内のアルファベットでその位置を示した。たとえば (e)

○ 純切手

* 著者らが同定

** H ヒドロ虫綱；C 箱虫綱；S 鉢虫綱

1) マージンにまたがるかあるいはマージンのみ

2) 切手帳の表紙

a	b	c
d	e	f
g	h	i

世界のクラゲ切手 [6]

樫山 嘉郎 (Kashiyama, Yoshiro) ・ 久保田 信 (Kubota, Shin)

解説は 9 ページ

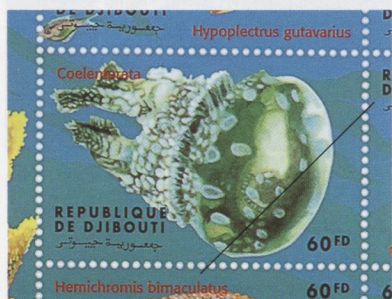


図117

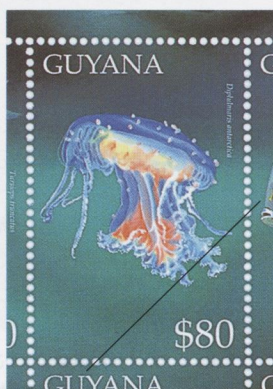


図118



図119

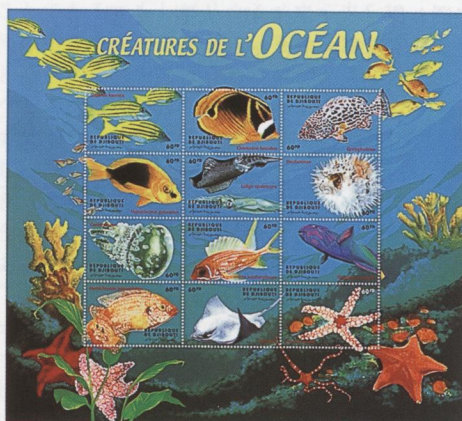


図117のシート全図 [30%]



図118のシート全図 [30%]

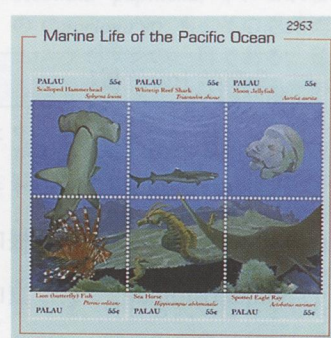


図119のシート全図 [40%]



図121



図120

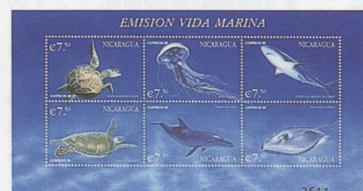


図120のシート全図 [30%]

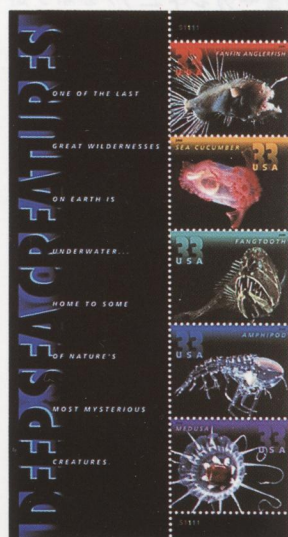


図121のシート全図 [40%]

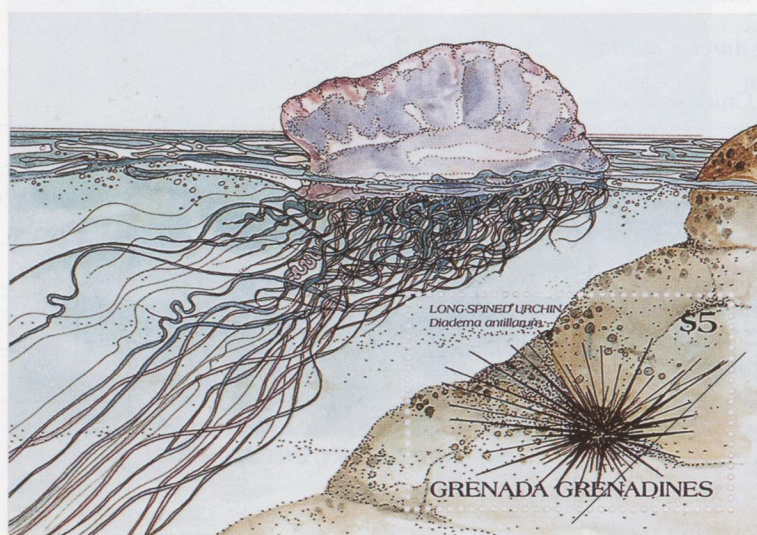


図122

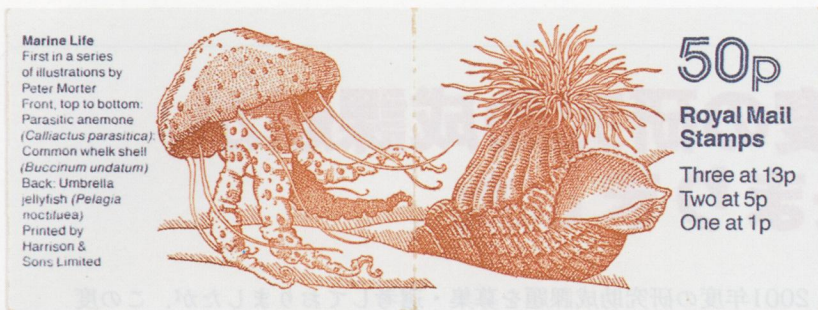


図123



図124



図125



図126 (f, j)



図126 (h)



図126 (m, n)



قواقع من ليبيا

図126のシート全図 [40%]



図127



図128



図129

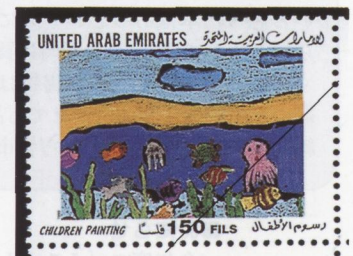


図130